

JNCA P 2015ロードマップ

試験・評価		補 足	2014 (26年度)	2015 (27年度)	2016 (28年度)	2017 (29年度)	2018 (30年度)	2019 (31年度)	2020 (32年度)	2021~ (33年度~)		
衝突 安全 性能 評価	乗員 保護	フルラップ		調査研究	胸たわみを基本とした評価の開始及び閾値変更		搭載ダミーの検討			次世代ダミーの導入に向けた調査研究		
		オフセット	・胸たわみを基本とした評価方法、閾値の変更 ・事故実態に応じた試験方法、使用ダミー及び閾値について検討 ・ダミー技術革新を受けた計測装置の変更									
		側 面				交通事故実態調査研究		閾値の検討				
		頸部保護						ダミー、MDB、閾値の検討				
	燃料（水素）漏れ評価	・FCV（燃料電池）を対象		調査研究	試験方法の策定							
	歩行者 保護	頭部保護	・衝突速度の変更、グリッド方式の活用			試験開始						
		脚部保護	・速度または閾値の変更			試験開始						
	総合安全性能評価		・閾値変更等に伴う総合評価の変更 ・軽トラック等の総合評価の検討		調査研究	小変更	調査研究	大変更	調査研究	予防アセス評価と統合した次世代総合評価の実施		
	その他		・交通事故実態調査結果を踏まえてスマールオーバーラップ、ポール側突、後突燃料漏れ及び後席の頸部保護等の導入を検討			交通事故実態調査研究						
	予 防 安 全 性 能 評 価	被害軽減ブレーキ [対車両]		試験実施								
被害軽減ブレーキ [対歩行者]		基礎調査	→ 調査研究	試験実施								
車線逸脱警報装置 (LDWS)		試験実施										
車線維持支援制御装置 (LKAS)		・逸脱防止機能の効果を含めて検討			調査研究	試験実施※						
後方視界情報提供装置		調査研究		試験実施								
被害軽減ブレーキ [対歩行者]		基礎調査		→	夜間の事故対策で可能などから対応							
配光可変前照灯		・夜間歩行者事故対策										
夜間前方歩行者注意喚起装置												
他の予防安全装置		・前方障害物衝突被害軽減制動制御装置（対自転車）、（交差点出会頭）、ふらつき注意喚起装置、踏み間違い防止装置等については事故実態を把握し、現状技術を調査研究した後に導入を検討する。			交通事故実態調査研究（現状技術の調査研究）							
事故自動通報装置 (ACN)		・普及促進手法のあり方も検討			調査研究	試験実施※						
C R S 性 能 評 価	前面衝突試験	・Qダミーによる試験		試験方法の見直し		調査研究	ダミーの変更					
	側面衝突試験						試験実施					
	使用性評価試験	・確実な装着に特化した評価		試験方法の見直し			試験実施					
	総合評価						総合評価実施					
	i-SIZE対応車種						対応車種の公表					

<整理の考え方>

- ① 現状の事故実態に応じて、死亡重傷者数の低減効果が高いと期待される試験方法あるいは装置を対象とする。
- ② 諸外国のNCAP機関が導入している等により参考となる試験方法を対象とする。
- ③ 高齢者・歩行者事故の拡大等の事故実態の傾向を踏まえて、今後効果が期待される装置を対象とする。

※義務付けが予定されている欧州の動向を注視